

美多ヶ話 第90話

み た が わ

平成24年2月1日

吉野ヶ里町立三田川小学校
校長 渡辺直也



ロンドン五輪まで半年。高志館高校の浜田真由さんがテコンドー女子57kg級の代表に内定しましたね。おめでとうございます。スゴいなあ…。

さて、男子ハンマー投げで金メダルが期待される室伏選手が出ている運送会社のCMを見たことがありますか？ 鍛えた体がかっこいい！ (^_^)

この会社のロゴマークの中に、矢印が隠されています。さてどこでしょう…



答え：Eとxの間です。文字以外の地の部分が➡の形になっています。

デザインの世界では、「ネガティブスペース」と言うそうです。面白いと言えばそれまでですが、文字以外の部分にも意味を持たせているということが重要なわけです。

この感覚は、日本人は特に優れていると思います。例えば、書道では黒い墨の部分と同じようにそれ以外の白い部分も大切な要素として扱います。また、庭師さんは、空間のバランスを考えながら木や石を配置していきます。生け花も、花や枝だけに注目して生けるわけではありませんよね。

この「ネガティブスペース」を、日本語で言うと「間(ま)」ということになるでしょう。日本人は昔から「間」を大切にしてきました。茶の間、居間、土間、床の間…。柱や壁は、「間」を作るための材料であり、使うのは「間」の方なんです。

私たちは、ともすると柱や壁の方に目が行きがちですが、大切なのは「間」の方なんです。目に見えるもの、目立つものだけに惑わされず、それ以外の見えにくい部分にも心を向けることができるようになりたいものです。

Level の話

高校生の息子が、こんな話をしました。「明日、家庭科の実習でピザを作るったい。今日、そのグループ分けがあった。その時、男子だけのグループがいいですと言った奴がいて、結局、俺たちのグループは男子だけになってしまった。あいつ、中学生レベルやん。」よくよく話を聞くと、

「調理実習は女子がいた方が効率がいいし、美味しくできる。だから、女子と混合のグループがいいに決まってる。女子と一緒にイヤなんて言うのは、中学生レベルのセリフだ。」と言うのです。

… 翌日、結果を聞くと …

「他の班は、出来上がったピザを切り分けているのに、俺たちはまだ焼き始めてもない！おまけに、焼き方が足らなくて生タマネギの味しかない！全然美味しくなかった！」考え方は高校生になったようですが、料理の腕前は中学生かも… (笑)



■夏ミカン■

甘夏、ハッサク、スウィーティ、デコポン、伊予柑、ポンカン…。柑橘類は種類が多すぎて私には区別が付きません。でも、妻と息子はちゃんと区別するんです。結局、興味があるか、ないかの問題なんですよね。(^^)

私は柑橘類をほとんど食べないのですが、妻と息子は毎日のように食べてます。そのせいか、妻の手はミカン色です。病気かと思うほど黄色っぽくなってます。

夏ミカンは秋に実がなりますが、数ヶ月間そのままにして酸味が和らぐのを待って収穫します。その食べ頃が夏ごろなので、「夏ミカン」と名がついたようです。夏まで待てない妻は、すっぱいままでもガンガン食べてます。(コワッ！)

興味を持つことが、すべての活動のエネルギー源だということがよくわかります。勉強も同じです。子どもに興味を持たせる工夫をしましょう。

